

## 平成24年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年7月12日

上場会社名 株式会社 日本色材工業研究所 上場取引所 大  
 コード番号 4920 URL <http://www.shikizai.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 奥村 浩士  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営統括本部長 (氏名) 土谷 康彦 (TEL) 03 (3456) 0561  
 四半期報告書提出予定日 平成23年7月13日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年2月期第1四半期の連結業績(平成23年3月1日～平成23年5月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年2月期第1四半期	1,698	1.4	107	13.2	85	24.7	39	4.4
23年2月期第1四半期	1,674	0.3	95	19.0	68	34.9	38	ー

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年2月期第1四半期	9.27	ー
23年2月期第1四半期	8.87	ー

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年2月期第1四半期	7,133	1,376	19.3	319.09
23年2月期	7,001	1,345	19.2	311.99

(参考)自己資本 24年2月期第1四半期 1,376百万円 23年2月期 1,345百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年2月期	ー	0.00	ー	10.00	10.00
24年2月期	ー				
24年2月期(予想)		0.00	ー	10.00	10.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 : 無

### 3. 平成24年2月期の連結業績予想(平成23年3月1日～平成24年2月29日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,361	△1.0	190	△2.5	149	5.1	16	△87.7	3.86
通期	6,921	3.9	509	26.5	434	41.9	204	279.6	47.43

(注)当四半期における業績予想の修正有無 : 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「2. その他の情報」をご覧ください。）

- (1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

- (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

- (4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年2月期1Q	4,318,444株	23年2月期	4,318,444株
24年2月期1Q	5,474株	23年2月期	5,474株
24年2月期1Q	4,312,970株	23年2月期1Q	4,315,378株

※四半期レビュー手続きの実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きは終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき記載しております。実際の業績は、今後様々な要因により予想とは異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）P.3「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) セグメント情報	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調の途上にあります。依然としてデフレの進行や厳しい雇用情勢を背景に個人消費マインドは低調なうえ、東日本大震災後の復興施策や電力供給体制の整備、原材料価格や個人消費動向など一段と先行き不透明な経済環境となりました。

このような厳しい事業環境下ではありますが、当社グループは、昨年4月にスタートした「さらなる成長に向けた事業構造改革プロジェクト(STEP-UP80)」の基本戦略のもとで、国内化粧品メーカー、国内異業種参入企業ならびに海外の大手化粧品メーカーに対し、製品開発力と技術力を活かした提案営業をグローバルに展開するかたわら、ファンデーション、ライナー・マスカラ、UV製品などの戦略的注力領域における新処方の開発、コスト削減ならびに生産性向上などの収益改善策に取り組んでまいりました。

このような施策が効を奏し、当第1四半期連結会計期間における経営成績は、売上高1,698百万円(前年同期比1.4%増)、営業利益107百万円(同13.2%増)、経常利益85百万円(同24.7%増)、四半期純利益は39百万円(同4.4%増)となりました。

セグメントの業績の概況は、次のとおりです。

当社は、当第1四半期連結会計期間から、マネジメント・アプローチによるセグメント情報の開示方法に基づき、報告セグメントとして従来の所在地別セグメントによる開示情報に一本化したしました。

(日本)

当社の化粧品事業は、引き続き好調を持続しており、主にアイシャドウ・チーク類、ライナー・マスカラ類、白粉・打粉、UV製品、スキンケア製品が前年同期を上回る受注を獲得しました。

収益面では、売上増加要因に加えSTEP-UP80による利益率の改善とコスト削減が奏効し、大幅な増益となりました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の売上高は1,490百万円、営業利益は148百万円となりました。

(仏国)

子会社THEPENIER PHARMA INDUSTRIE S.A.S.(以下、テプニエ社という)の所在する欧州経済は、ギリシャ、ポルトガル諸国のソブリン・リスクの台頭や域内経済の長期停滞などを背景に個人消費が冷え込むなど、依然として厳しい事業環境が続いております。

そのような事業環境のもと、テプニエ社は、主力の医薬品とスキンケア化粧品の受注が前年同期を下回ったうえに、賃金改定や派遣スタッフ増員による人件費負担増に為替要因が加わり、厳しい経営成績を余儀なくされました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の売上高は214百万円、営業損失は40百万円となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

#### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して131百万円増加し、7,133百万円となりました。主な増加要因は、たな卸資産の増加122百万円と受取手形及び売掛金の増加42百万円による流動資産の増加によるものです。

一方、負債合計は、前連結会計年度末と比較して100百万円増加し、5,757百万円となりました。主な増加要因は、流動負債が短期借入金の減少等で352百万円減少し、固定負債が長期借入金の増加で453百万円増加したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末より30百万円増加して1,376百万円となりました。主な増加要因は、株主資本が、当第1四半期連結会計期間の利益剰余金の増加39百万円に対して、前連結会計年度の支払配当金43百万円を差し引いたことで前連結会計年度末より3百万円減少し1,420百万円となりましたが、前連結会計年度末より対ユーロの為替が円安に動いた結果、為替換算調整勘定が前連結会計年度末より47百万円増加したため、評価・換算差額等が33百万円増加して△43百万円になったことによるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末より25百万円減少して715百万円となりました。当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果減少した資金は、10百万円（前年同期は131百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益85百万円、減価償却費67百万円、その他の流動負債の増加額34百万円から得られた資金からたな卸資産の増加額113百万円、売上債権の増加額21百万円、利息の支払額30百万円、法人税等の支払額34百万円を差し引いた結果によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、29百万円（前年同期は38百万円の支出）となりました。これは主に、生産効率をあげるために老朽化した機械装置等を買替えたことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、10百万円（前年同期は81百万円の収入）となりました。これは主に、短期借入金の純減少額390百万円、長期借入れによる収入850百万円と長期借入金の返済438百万円、社債発行による収入98百万円と社債の償還66百万円、配当金の支払35百万円によるものであります。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

平成24年2月期の連結業績予想につきましては、平成23年4月18日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. その他の情報

（1）重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

（2）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

（簡便な会計処理）

① 棚卸資産の評価方法

当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ、簿価切下げを行う方法によっております。

② 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合に、前連結会計年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理）

該当事項はありません。

（3）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

（「資産除去債務に関する会計基準」等の適用）

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これによる損益への影響はありません。

（表示方法の変更）

四半期連結損益計算書関係

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第1四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成23年5月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成23年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	914,864	929,868
受取手形及び売掛金	1,635,620	1,592,685
たな卸資産	980,237	857,654
その他	184,095	202,043
貸倒引当金	△557	△543
流動資産合計	3,714,261	3,581,708
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,245,308	1,242,408
機械装置及び運搬具(純額)	331,310	335,943
土地	1,327,393	1,326,477
その他(純額)	44,597	43,815
有形固定資産合計	2,948,609	2,948,644
無形固定資産	201,606	200,991
投資その他の資産		
投資有価証券	156,396	167,345
その他	161,979	148,549
貸倒引当金	△49,429	△45,363
投資その他の資産合計	268,946	270,531
固定資産合計	3,419,162	3,420,168
資産合計	7,133,423	7,001,876
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	970,342	975,721
短期借入金	1,469,804	1,885,855
1年内償還予定の社債	166,800	133,400
未払法人税等	38,132	40,711
偶発損失引当金	2,351	2,158
その他	669,732	631,636
流動負債合計	3,317,164	3,669,482
固定負債		
社債	316,500	316,600
長期借入金	1,777,776	1,339,863
退職給付引当金	109,295	102,241
役員退職慰労引当金	172,910	172,910
その他	63,563	55,171
固定負債合計	2,440,045	1,986,786
負債合計	5,757,209	5,656,268

(単位:千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成23年5月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成23年2月28日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	552,749	552,749
資本剰余金	781,854	781,854
利益剰余金	87,531	90,698
自己株式	△2,084	△2,084
株主資本合計	1,420,050	1,423,218
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	11,255	18,033
繰延ヘッジ損益	△10,815	△3,901
為替換算調整勘定	△44,275	△91,742
評価・換算差額等合計	△43,836	△77,610
純資産合計	1,376,214	1,345,607
負債純資産合計	7,133,423	7,001,876

(2) 四半期連結損益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年5月31日)
売上高	1,674,920	1,698,497
売上原価	1,329,740	1,334,230
売上総利益	345,180	364,267
販売費及び一般管理費	250,130	256,638
営業利益	95,049	107,629
営業外収益		
受取利息	119	40
受取配当金	64	88
投資有価証券割当益	3,531	—
保険解約返戻金	—	1,901
その他	3,686	2,274
営業外収益合計	7,401	4,304
営業外費用		
支払利息	28,639	22,692
社債発行費	—	1,859
その他	5,010	1,560
営業外費用合計	33,650	26,112
経常利益	68,800	85,821
特別利益		
貸倒引当金戻入額	62	—
特別利益合計	62	—
特別損失		
固定資産除却損	84	75
特別損失合計	84	75
税金等調整前四半期純利益	68,778	85,745
法人税、住民税及び事業税	8,337	34,798
法人税等調整額	22,172	10,985
法人税等合計	30,510	45,783
少数株主損益調整前四半期純利益	—	39,962
四半期純利益	38,268	39,962

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成22年 3 月 1 日 至 平成22年 5 月 31 日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成23年 3 月 1 日 至 平成23年 5 月 31 日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	68,778	85,745
減価償却費	66,757	67,174
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△1,024	824
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△62	13
受取利息及び受取配当金	△183	△128
支払利息	28,639	22,692
社債発行費	—	1,859
投資有価証券割当益	△3,531	—
固定資産除却損	84	75
売上債権の増減額 (△は増加)	132,718	△21,998
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△56,800	△113,507
仕入債務の増減額 (△は減少)	△28,835	△10,738
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△20,895	5,261
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	8,363	34,794
その他	△5,592	△17,479
小計	188,416	54,589
利息及び配当金の受取額	277	150
利息の支払額	△49,797	△30,904
法人税等の支払額	△7,755	△34,043
営業活動によるキャッシュ・フロー	131,140	△10,208
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△132,500	△62,500
定期預金の払戻による収入	102,500	62,500
有形固定資産の取得による支出	△8,305	△25,926
無形固定資産の取得による支出	△490	△3,562
その他	31	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△38,764	△29,488
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	22,200	△390,000
長期借入れによる収入	640,000	850,000
長期借入金の返済による支出	△523,031	△438,137
社債の発行による収入	—	98,140
社債の償還による支出	△50,000	△66,700
自己株式の取得による支出	△133	—
リース債務の返済による支出	△6,512	△6,757
配当金の支払額	△33,197	△35,142
その他	31,861	△613
財務活動によるキャッシュ・フロー	81,186	10,789
現金及び現金同等物に係る換算差額	△657	3,289
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	172,904	△25,617
現金及び現金同等物の期首残高	310,835	741,330
現金及び現金同等物の四半期末残高	483,740	715,712

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間(自平成22年3月1日 至平成22年5月31日)

	化粧品事業 (千円)	医薬品その他 事業(千円)	計(千円)	消去又は全社 (千円)	連結(千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,514,190	160,729	1,674,920	—	1,674,920
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,514,190	160,729	1,674,920	—	1,674,920
営業利益	222,941	12,963	235,904	(140,855)	95,049

(注) 1. 事業区分の方法……製品の種類別区分によっております。

2. 各区分に属する主な製品名称

(1) 化粧品事業……ファンデーション、アイシャドー、チーク、口紅、リップクリーム、美容乳液、日焼け止め等

(2) 医薬品その他事業…水虫治療薬、薬用歯磨き、口腔洗浄剤、耳洗浄剤、衛生製品等

[所在地別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間(自平成22年3月1日 至平成22年5月31日)

	日本(千円)	仏国(千円)	計(千円)	消去又は全社 (千円)	連結(千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,396,949	277,971	1,674,920	—	1,674,920
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	6,593	—	6,593	(6,593)	—
計	1,403,542	277,971	1,681,513	(6,593)	1,674,920
営業利益	225,958	9,047	235,005	(139,956)	95,049

(注) 1. 国又は地域の区分の方法……製造工場所在地によっております。

[海外売上高]

前第1四半期連結累計期間(自平成22年3月1日 至平成22年5月31日)

	欧州	その他の地域	計
I. 海外売上高(千円)	295,701	85,001	380,702
II. 連結売上高(千円)	—	—	1,674,920
III. 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	17.7	5.1	22.7

(注) 1. 国又は地域の区分の方法……地理的近接度によっております。

2. 各区分に属する主な国又は地域

(1) 欧州：フランス、イタリア、英国、ドイツ、ベルギー

(2) その他の地域：北米、中国、香港、マレーシア

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

## 〔セグメント情報〕

## 1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、主に化粧品等を生産しており、国内においては当社が、仏国においてはTHEPENIER PHARMA INDUSTRIE S.A.S.が、取り扱う製品について包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、生産体制を基礎とした所在地別のセグメントから構成されており、「日本」及び「仏国」の2つを報告セグメントとしております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間(自平成23年3月1日 至平成23年5月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	仏国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,483,716	214,781	1,698,497	—	1,698,497
セグメント間の内部売上高又は 振替高	6,855	—	6,855	△6,855	—
計	1,490,571	214,781	1,705,352	△6,855	1,698,497
セグメント利益又は損失(△)	148,849	△40,826	108,022	△393	107,629

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△393千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## (追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

## (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。